梨本清一君　「裏小の森」が力強く健やかに育っていきます様に。

佐藤義英君　やっと家が完成しました。

今井克義君　成長盛りの子供達の給食に比べ老化のみの我々の食べる食事の多さに改めて気づきました。大野校長の卓話ありがとうございます。

ロータリー財団：

山本賢君　西山斉幹事、ご長男誕生おめでとうございます。

卓　　話：「うらだての森を通して見た日本の教育」三条市立裏館小学校校長　大野　源　様

1　はじめに

「うらだての森」の造成にあたり、三条北ロータリークラブの皆様方から、椿・山茶花をはじめ、80本の樹木の贈呈をいただき感謝申し上げます。おかげ様で、県下に誇る中庭になったと喜んでいます。

さて、このたび依頼がありました卓話は、「うらだての森」を通して見た日本の教育、と題してお話させていただきます。

2　なぜ、「うらだての森」なのか

今、日本をはじめ世界各国で森づくりに関心が集まっています。裏館(うらだて)小学校では、乱雑になっていた中庭を、どう子どものためのものにしていくか、ということで平成13年５月の職員会議で話し合いました。７月に「いのちと心を育むみどりの学校環境づくりの指針」―いのちと心の教育の実践を目指す『うらだての森』（30Ｐ)―を提案、共通理解のもと「うらだての森づくり」に取り組むことにしました。

子どもは自然が大好きです。市の教育委員会のご支援で完成した、中庭のビオトープ（池）で水浸しになってめだかを追いかけ回す姿は、子どもの自然の姿です。昨年植えた「うらだての森」の芽吹きに感動し、かわいい芽が出た、と報告に来る子どもの目はいきいきと輝いています。

裏館の子どもたちを、もう一度自然に帰してあげたい。これが私たち教職員の願いです。そして、いのちと心の教育を「うらだての森」を通して行っていきたいと考えたわけです。

3　「うらだての森」を通して地球環境を考える

「うらだての森」と「ビオトープ(池）」は、大自然の縮図として造成しました。そこから様々なことを学ぶことにしました。

具体的には次のように学びます。大きな地球の直径を1.5mに縮小します。そこでの森林の面積(子どもたちはうらだての森を思い浮かべている)や耕地面積を考えます。森林の面積は、ハンカチ２枚ほどでしかありません。耕地面積に至っては、１枚にしかなりません。次に水の量（子どもたちはビオトープを思い浮かべている）について考えてみます。水の量は、２です。そのうち飲水に出来る量は、小さなスプーン１杯分程度です。いかに人間にとって、水は貴重であるかが分かります。61億の地球人口を想定すると、森林の面積や食料を生産する耕地面積、飲み水は、絶対的に不

足していると言わざるを得ません。子どもたちは森を通して学んでいきます。

子どもたち学びは続きます。自分たちを取り巻く地球環境は、今どうなっているのか調べていきます。自動車の排気ガスや化石燃料を燃やすことによる大気汚染、家庭がたれ流す合成洗剤や工場廃水による水質汚濁、フロンガスによるオゾン層破壊、森林伐採による地球温暖化、温暖化による集中豪雨、産業廃棄物、家庭から出されるゴミ等、学ぶことは数限りなくあります。このように「うらだての森」や「ビオトープ（池）」を通して、地球の環境問題について学んでいきます。

4　日本の学習指導要領の変遷

学習指導要領は、国が出している教育課程の基準です。日本全国の学校は、この基準にそって教育を行います。学習指導要領は、昭和22年に初めて出され、その後、6回改定が行われました。平成14年が最も新しい改訂の年でした。この時、総合的な学習の時間（以下、総合学習と呼ぶ）が設定されます。総合学習は、子どもたちに、自ら考え、問題を見つけ、判断、行動し、解決する、という「学び」の手法をとります。欧米の教育のあり方に学んでいるわけです。日本の教育は、座学と言って、教師が前に立ち、子どもたちが正対して並び、教育を受けるという方法で行ってきました。この教育の方法は、東アジア（日本・韓国・中国・東南アジア）だけで行われているもので、脱皮が熱望されてきました。一歩欧米の教育方法に近づいたと言えます。したがって、総合学習の日本における定着が期待されるわけです。

裏館小学校では、この総合学習の時間を有効に活用し、「うらだての森」を通して、地球のことや地球の環境問題について学んでいくことにしています。

5　世界の教育の動向

小生は、平成元年、文部省派遣によりアメリカ・カナダの教育視察を2週間にわたり行う機会を得ました。幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学と視察し、たくさんのことを学ぶことが出来ました。アメリカ・カナダでは、15年前にコンピュータが、すでに1人に1台か、2人に1台導入されていました。日本がいかに遅れていたかが分かりました。教育の方法は、子ども中心の学びのスタイルで行なわれていました。こちらも遅れをとっていると感じました。国によって教育のあり方が違いますが、戦後日本は、アメリカの教育を導入しながら教育改革を行ってきました。しかし、座学のスタイルからの脱皮は出来ませんでした。座学による教育方法が染み付いていました。日本人に合っていたのかも知れません。

このたび、総合学習の導入により日本の教育が変わるきっかけを創ったと言っても過言ではありません。その意味では、中央教育課程審議委員および文部官僚の英断にエールを送りたいと考えます。

中国には6回行く機会を得、多くを学びました。中国は英才教育を進めています。絵・音楽・習字・舞踊・語学・算数・理科等、才能を持っている子どもは、国家の力で伸ばして行こうという考